

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年5月14日

【2018年5月5日～2018年5月11日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドルおよび対円で下落しました。また、2年国債金利は大幅に上昇しました。米国のインフレ指標を受けて、米金融当局が金融政策引き締めを加速する必要性が後退したとの観測から、新興国市場は全般的に落ち着きを取り戻しました。しかし、ブラジル金融市場では、ブラジル中央銀行のゴールドファイン総裁が「金融政策運営においてインフレ動向をより重視する」旨の発言を行い、次回のCOPOM（金融政策委員会）での追加利下げを改めて示唆した結果、ブラジルと米国の金利差が一段と縮小するとの思惑から、通貨安が進行しました。また、通貨安が将来的にインフレ率上昇をもたらすとの見方が金利上昇要因となりました。

10日（現地、以下同様）に発表された4月のIPCAインフレ率は、前年比で+2.76%となり、前回3月分を上回った一方で、市場予想を小幅に下回る結果となりました。

政治情勢では、大統領選の有力候補者であったバルボザ氏（ブラジル社会党・PSB）が出馬を断念したことが話題となりました。また、先週のレポートでお伝えしたベネズエラ向け債務保証の問題につきましては、債務保証に対する追加的な財政支出が議会で承認され、ブラジル政府の債務不履行という事態は回避されました。

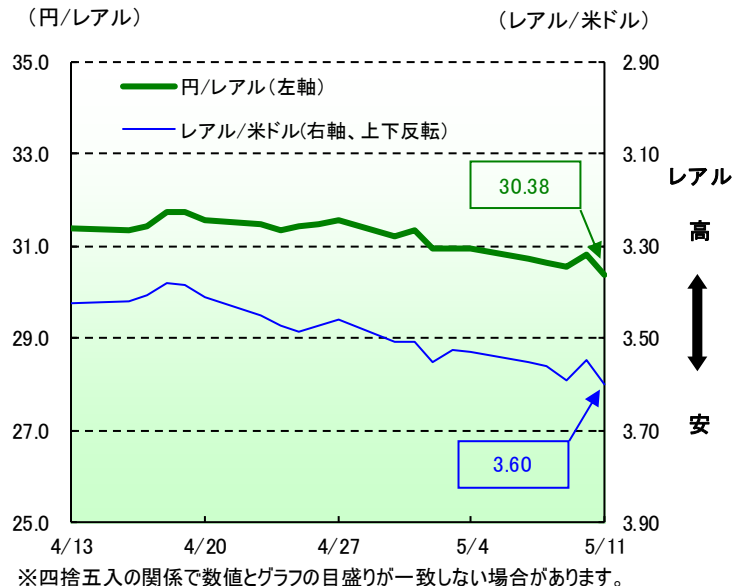
【2】今週の見通し

今週は15日から16日にかけて開催されるCOPOMでの金融政策変更に注目が集まります。市場予想では、政策金利を0.25%ポイント引下げて6.25%とすることが見込まれています。現在のIPCAインフレ率は依然として物価目標レンジを下回っているものの、通貨安の進行とそれに伴うインフレ期待の上昇から、今回の利下げをもってブラジル中央銀行はいったん利下げを停止する可能性が高いと考えています。しかし、さらなる追加利下げが示唆された場合は、通貨安が一段と進行する可能性もあるため、声明文の内容には注意が必要です。

政治情勢では、最新の大統領選世論調査が発表される予定となっています。バルボザ氏の出馬断念によって、同氏が有していた10%程度の支持率がどの候補に流れるのかが注目されます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

（2018年4月13日～2018年5月11日）



【ブラジル 金利推移】

（2018年4月13日～2018年5月11日）



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>